

平成30年12月12日

各位

会社名 株式会社ソフトフロントホールディングス
代表者名 代表取締役社長 平野井 順一
(JASDAQ・コード 2321)
問合せ先 執行役員IR・法務担当 五十嵐 達哉
電話 03-6550-9270

過年度の決算短信等の一部訂正に関するお知らせ

当社は、本日付で下記のとおり、過年度に公表した下記の決算短信及び四半期決算短信を訂正すると共に、有価証券報告書、四半期報告書及び内部統制報告書の訂正報告書を提出することになりましたので、お知らせいたします。

なお、今回の訂正による過年度業績への影響は別紙に記載のとおりであります。前連結会計年度末日(平成30年3月31日)以降における債務超過額が150百万円減少することとなり、平成31年3月期第2四半期連結会計期間末日(平成30年9月30日)での債務超過額は49百万円に減少いたします。

株主・投資家の皆様をはじめ関係各位におかれましては、多大なご迷惑とご心配をお掛けいたしますことを、心よりお詫び申し上げます。

記

1. 訂正の経緯及び理由

当社は平成28年11月11日付『エステティックサロン「Belle lumiere」(ベルルミエール)を展開する有限会社グッドスタイルカンパニーの株式取得(子会社化)に関するお知らせ』に記載のとおり、平成28年11月14日付で有限会社グッドスタイルカンパニー(現株式会社グッドスタイルカンパニー。以下、「グッドスタイルカンパニー社」という。)を連結子会社化いたしました。その後、平成29年12月27日付『子会社(株式会社グッドスタイルカンパニー)の株式の一部譲渡に関するお知らせ』に記載のとおり、平成29年12月28日付でグッドスタイルカンパニー社は当社の連結子会社ではなくなり、持分法適用会社でもなくなっております。

このように、グッドスタイルカンパニー社が当社の連結子会社であった関係で、グッドスタイルカンパニー社の株式会社静岡銀行からの借入の一部に対する当社の債務保証が依然残されている状況にあります。当社は、前連結会計年度(平成30年3月期)の決算において、平成30年3月30日付『当社出資先及び取引先である株式会社グッドスタイルカンパニーに対する行政処分に関するお知らせ』に記載のとおり、グッドスタイルカンパニー社が平成30年3月28日付で消費者庁より行政処分(業務の一部に係る業務停止命令等)を受けたことにより、グッドスタイルカンパニー社の財政状態や営業状態が低迷していたことを勘案して、特別損失として、当該債務保証に係る債務保証損失引当金繰入額306,870千円を計上いたしました。

グッドスタイルカンパニー社は、その後、平成30年7月11日付『グッドスタイルカンパニー社に対する行政処分の執行停止及び全業務の再開に関するお知らせ(開示事項の経過)』に記載のとおり、全ての業務を再開しており、前連結会計年度(平成30年3月期)の決算発表(平成30年5月18日)時点に比べると、財政状態や営業状態の改善が進んでおります。そのため、当社は、債務保証損失引当金の評価の検討を進めておりましたが、その検討の過程で、グッドスタイルカンパニー社の株式会社静岡銀行からの借入(当社が連帯保証していないものも含む。)において、グッドスタイルカンパニー社が保有する土地・建物が担保とされていたとの事実をグッドスタイルカンパニー社から新たに入手した証憑により確認することができました。当該担保設定は前連結会計年度末日(平成30年3月31日)時点でもなされていたことから、当社は、前連結会計年度(平成30年3月期)に遡及して債務保証損失引当の評価を見直し、債務保証損失引当金繰入額を306,870千円から156,241千円に減額することが妥当と判断するに至りました。

これに伴い、本日付で次項に示す決算短信及び四半期決算短信の訂正を行っております。また、併せて、本日付で関連する有価証券報告書、四半期報告書及び内部統制報告書の訂正報告書を提出する予定であります。

2. 訂正を行う決算短信及び四半期決算短信

訂正日：平成30年12月12日

- ・平成30年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)
- ・平成31年3月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)
- ・平成31年3月期第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

(注) 有価証券報告書 第20期(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)の注記において一部訂正がありますが、決算短信において記載のない注記であるため、平成29年3月期の決算短信の訂正は不要であります。

3. 訂正を行う有価証券報告書、四半期報告書及び内部統制報告書

訂正日：平成30年12月12日(予定)

- ・有価証券報告書 第20期(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)
- ・有価証券報告書 第21期(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)
- ・四半期報告書 第22期(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)
- ・四半期報告書 第22期(自平成30年7月1日至平成30年9月30日)
- ・内部統制報告書 第21期(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

4. 今後の見通し

決算修正を行うことは誠に遺憾ではありますが、過年度に計上した特別損失の金額が150百万円減少したことにより、債務超過の金額も減少して、前連結会計年度末日(平成30年3月31日)で89百万円となり、平成31年3月期第2四半期連結会計期間末日(平成30年9月30日)で49百万円となりました。

当社は、上記のとおり、債務超過額が大幅に減少した中、次に示す各施策を着実に進展させ、当連結会計年度末日(平成31年3月31日)における当社の債務超過の解消を確実なものとしてまいります。更に、今後は次のステップとして、黒字転換の早期化に向け、各種施策を進めてまいります。

- ①本日、マイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社により第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の20百万円分が転換・権利行使され、また、株式会社オセアグループにより第10回新株予約権の65個(権利行使に係る払込総額:91百万円)が権利行使されており、合計111百万円の資本の増強が進んでいる中、更に第1回無担保転換社債型新株予約権付社債並びに第10回新株予約権及び第11回新株予約権の転換・行使による資本の増強を進めること
- ②経営の合理化及び体制の最適化を進めること
- ③回復基調にあるコミュニケーションソフトウェア事業や本年10月から販売を開始した自然会話AIプラットフォーム「commubo」関連事業の拡販に注力すること

以 上

(別紙) 訂正による過年度業績への影響

【連結財務諸表】

1. 第21期（平成30年3月期）への影響額（単位：百万円）

期間	項目	訂正前	訂正額	訂正後
通期	売上高	1,233	—	1,233
	営業利益	△851	—	△851
	経常利益	△797	—	△797
	親会社株主に帰属 する当期純利益	△1,740	150	△1,589
	総資産	433	—	433
	純資産	△239	150	△89

2. 第22期（平成31年3月期）への影響額（単位：百万円）

期間	項目	訂正前	訂正額	訂正後
第1四半期	売上高	114	—	114
	営業利益	△138	—	△138
	経常利益	△158	—	△158
	親会社株主に帰属 する四半期純利益	△145	—	△145
	総資産	443	—	443
	純資産	△77	150	72
第2四半期	売上高	240	—	240
	営業利益	△224	—	△224
	経常利益	△244	—	△244
	親会社株主に帰属 する四半期純利益	△266	—	△266
	総資産	316	—	316
	純資産	△200	150	△49

【個別財務諸表】

第21期（平成30年3月期）への影響額（単位：百万円）

期間	項目	訂正前	訂正額	訂正後
通期	売上高	208	—	208
	営業利益	△530	—	△530
	経常利益	△518	—	△518
	当期純利益	△1,749	150	△1,599
	総資産	357	—	357
	純資産	△237	150	△87